



ファッションの
ちょっと・ウンチク

プリーツのお話

ドレッシーなファッションを演出するプリーツ。ヒダがついたデザインは、古代エジプトの壁画にも見られるほど歴史がありますが、洗濯やクリーニングに耐えるプリーツ加工の歴史は意外に浅く、第2次大戦後にアセテートに初めて施され、ポリエステル普及とともに、大衆ファッションに取り入れられるようになりました。

●プリーツ加工の素材と加工原理

最も安定性の高い加工は、ポリエステル素材で、高熱をかけて型付けをするものです。ポリエステルの原料は、ペットボトルと同じポリエチレンテレフタレートなので、ペットボトルを熱によって成形するのと同じ熱可塑性（ねつかそせい）という性質を利用した加工です。



ポリエステルプリーツ

また、ウールのプリーツ加工は、人の髪の毛と同じ原理による加工がなされています。綿では、形態安定ワイシャツの加工と同じ樹脂などによる加工が施されています。

繊維	評価	加工法
ポリエステル	○	熱可塑性
アセテート	△	熱可塑性
毛	○	シスチン結合
綿	△	架橋結合
絹	×	水素結合

資料：東京都立産業技術研究センター

しかし絹やレーヨンに対する製品加工は困難で、水に濡れると容易に取れてしまう性質があり、水洗いすることはできません。有名なエルメスのシルクプリーツスカーフには水をはじく撥水加工がなされていますが、濡れてしまうと緩んでしまいますのでご注意ください。

絵画の中の洗濯風景

陽光の中で



エットーレ・デ・マリア・ベルグラ（1881年）

エットーレ・デ・マリア・ベルグラ（1850-1938）はイタリアの画家であり、アール・ヌーヴォー様式の絵画で知られる一方、風俗画や風景画にも精通していました。

エットーレは、シチリア島の市長を務めていた父親とオーストリアのウィーン出身の母親による裕福な家庭の子息としてナポリに生まれました。

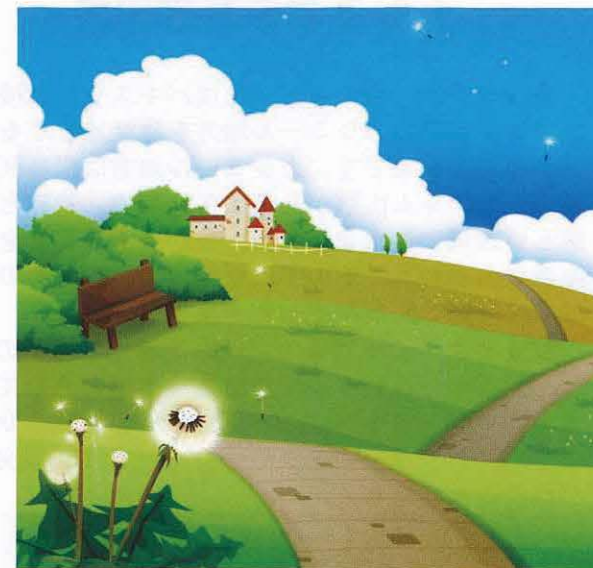
この風景は、地中海沿いの穏やかな村で、洗濯を終えた二人の女性がタイトルに「陽光の中で (Al sole)」とあるように柔らかな日差しを浴びて談笑している心温まる光景を描いています。

この作品は誰でも自由に利用できるパブリックドメインとなっており、現在ではポスターやジグソーパズルなどのアートグッズとしても親しまれています。

暮らし応援ニューズレター

HomeDry News

ホームドライニュース No.126



- 絵画の中の洗濯風景：陽光の中で
- ファッションのちょっと・ウンチク：プリーツのお話
- 繊維と服飾の物語：
繊維の宝石といわれたカシミヤの基礎知識
- なるほど納得！衣生活の知恵：
花粉もホコリもブラッシングが効果的!!



繊維と服飾の物語



繊維の宝石といわれた カシミアの基礎知識

カシミアは、西は中国、東はパキスタンに接する北インド周辺のカシミア地方を原産地とする山羊（ヤギ）の獣毛です。カシミア地方は標高8000m級のカラコルム山脈がある山岳地帯で、荒涼とした厳しい環境に生息するため、冬が近くなると全身が剛毛におおわれ、その下に酷寒に耐えるための繊細な柔毛（綿毛）が密生してきます。

羊毛のようにハサミやバリカンで刈り取るのと違って、柔毛だけをクシですきとって集められています。柔毛は、1頭から約150～250g程度しか採れません。セーターに3頭分、コートでは30頭分の毛が必要になります。



カシミア山羊

カシミア地方だけでしか産出しない時代は、金と同等の価値ともいわれ、数10年前はコート1着が100万円以上ともされていました。しかし1980年代以降、中国の内モンゴル自治区の高原地帯で大量に養殖されるようになり、大幅にコストダウンするこ

とができるようになり、ファッション素材として幅広く普及するようになりました。

現在では、高級獣毛の定番としてマフラー、セーターなどに使われ、柔らかく繊細な性質から強い羊毛との混紡生地によるスーツやコートなどの重衣料の素材としても幅広く親しまれるようになりました。

●カシミアの特徴

カシミア繊維には、他の獣毛と違って芯となる毛髓がないため、重量が軽く、ぬめり感のあるしなやかさ、絹のような光沢があり、保温性にも優れています。

その一方、毛髓がないためにシワになりやすい、形崩れしやすい、収縮しやすい、しめっぽくなりやすい、耐久性に欠けるなどの難点もあります。

カシミア製品にカシミア100%のものは、ほとんどなく羊毛などの混紡品が多いのは耐久性に欠けるということを補う意味があります。

●お客様へのアドバイス

①着用後は、柔らかいブラシで生地目にそってブラッシングし、ほこりや汚れを落としましょう。このことで、毛本来のつやも取り戻せます。

②湿気を吸収すると強度が低下しますので、雨天時の着用は避けましょう。

③細く柔らかいタンパク質繊維ですから、ウールよりも虫害にあいやすいといえます。収納の際は、防虫剤と乾燥剤などを併用しましょう。



柔らかなカシミアの起毛部分だけが虫害

④水に入れただけでも縮んだり風合いが変わったりしてしまう恐れがありますので、家庭洗濯は避けさせていただくことをお勧めします。汚れの軽いうちに、クリーニングに出してください。



花粉にもホコリにも ブラッシングが効果的!!

衣類は、普段からブラッシングでお手入れする習慣をつけましょう。

スーツやコートなどのウールやカシミア製品は、一度着たらクローゼットにしまう前にブラッシングする習慣をつけましょう。外出時に、繊維の間に花粉やホコリなどが付着してしまいます。これを放置しておくと、繊維の奥に入り込み、皮脂や油煙などの油性の汚れなどによって固着されてしまうからです。



衣類のブラシは、豚や馬の毛がおすすりめです。合成繊維だと、静電気が発生して、逆にホコリを吸い寄せたり、繊維が絡まって毛玉の原因になったりするからです。豚毛は、硬めですから、カシミアなどには馬毛の方がよいでしょう。

ブラシは水平に持って、生地目に沿って上から下に軽くリズムカルにかけます。ホコリが詰まっているように感じたら、下から上に掛け、毛並みをそろえるように上から下に掛けて整えます。